

# 令和6年度 学習分析事業 課題改善シート 三原市立須波小学校

【別紙1】

## 1 本年度の結果

### ①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均		46.8	52.7	58.8	55.6	52.8
	本年度結果 偏差値平均	49.5	52	52.5	56.8	58.8	53.3
算数	前年度結果 偏差値平均		48	52.8	55.3	59.2	52.4
	本年度結果 偏差値平均	48.1	48.3	54.6	55	57.8	52.7
理科	前年度結果 偏差値平均				54.7	58	54.6
	本年度結果 偏差値平均			53.1	51.5	57.8	53.7
全体	前年度結果 偏差値平均		47.4	52.7	56.3	57.6	53
	本年度結果 偏差値平均	48.8	50.2	53.4	54.5	58.1	52.7

### ②全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	算数
前年度結果 (対県比)	69 (100)	63 (98)
本年度結果 (対県比)	86 (124)	78 (121)

## 2 令和5年度について

### ①調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <p>●国語科では、説明文の詳細を読み取る(2年:18%)、説明文・共通点の考察(3年:17%)、説明文・段落内容理解(4年:17%)、報告文の組み立てへの読み取り(5年:20%)、説明文の詳細を読み取る(6年:18%)</p> <p>●算数科では、数直線上の数を読み取る(2年:0%)、計算を工夫して考える(3年:8%)、二等辺三角形を説明する(4年:0%)、座標を読み取る(5年:0%)、目的に合ったグラフの選択(6年:0%)</p> <p>●理科では、磁石になる鉄くぎの極(4年:0%)、結露の問題(5年:20%)、水溶液の特徴(6年:9%)</p> <p>学校全体としては、読むこと・領域に課題が見られる。</p>	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>●国語科・・・原因と結果など情報と情報との関係について理解することに課題がある。(正答率54.5%)また、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。(正答率45.5%)</p> <p>●算数科・・・示された基準量と比較量から、割合を求めることに課題がある。(A数と計算 正答率18.2%)また、数の変化に着目して考えたり、必要な情報から問われていることを理解したりすることに課題がある。(C変化と関係 正答率36.4%)</p>
---	--

### ②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○全国学力・学習状況調査の児童質問紙(学習に関係)において、肯定的評価が県平均より10%以上低い項目(8項目)の数値を上げる。</p> <p>○全教諭が、本校の授業改善重点項目の視点に立った授業を実施する。</p>	<p>①全教職員で、研修を行う。</p> <p>②授業者が、複式学級の見守り型支援の授業作りを行う。</p> <p>③授業者が、本校の授業改善重点項目の視点に立った授業を行う。</p> <p>④全学級で、現在取り組んでいる宿題・ドリルタイムの取組の徹底を図る。また、ドリルタイムでアシストシートを活用し、前学年の復習や現学年の学習の定着を図る。</p> <p>⑤低学力層の児童には、各担任が実態に応じて個別指導を行うと共に、高学年には、これまでの学年においてどこでつまづいているかをアシストシート等を用いて把握し、組織的、計画的に取組を行う。</p>	<p>①7～8月</p> <p>②7月～4月</p> <p>③7月～4月</p> <p>④9月～4月</p> <p>⑤7月～4月</p>	<p>・単元末テストの達成率(低学年90点、中学年85点、高学年80点以上)の児童の割合を70%。</p> <p>・授業者のファシリテーター力の自己評価ならびに管理職による授業観察時の評価ポイントの平均を80%以上。</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○学級実態を把握し、今後の学級集団づくりや個別の支援に生かす、児童にとって「居心地がよく、学習意欲が高まる」クラスにする。</p> <p>○全学級において、須波小学級づくり5原則「落ち着く」「傷つかない」「心温まる」「わかる」「居場所がある」を意識した学級・学習集団づくりを行う。</p>	<p>①学校経営会議及び全教職員で、全学級の実態と支援対象児童の把握をともに、改善計画を共有する。</p> <p>②全教職員が、学級実態の把握後、生徒指導三機能(児童に自己決定の場を与える、児童に自己存在感を与える、共感的人間関係を育成する)の視点や特別支援教育の視点に立った取組を行う。</p> <p>③全学級で、隔週金曜日の朝会時にソーシャルスキルトレーニングを実施する。</p>	<p>①7月</p> <p>②7月～3月</p> <p>③6月～3月</p>	<p>・全学級が、Q-U2回目において、三次支援児童数0人、一次支援児童の割合数値を向上させる。</p>

## 3 令和6年度について

### ①調査から明らかになった課題

<p>【学力調査について】(NRTをうけて)</p> <p>●国語科では、全体を通して聞く力と読む力に課題がある。</p> <p>●算数科では、全体を通して計算の仕方やグラフ、表などを説明する問題の通過率が低かった。表現力に課題が見られる。低学年においては、時刻や時間の読み方、かけ算九九の定着やたし算とひき算の筆算に課題が見られた。</p> <p>●理科では、全体を通して電気に関する問題や生物の育ち等についての問題に課題が見られた。</p> <p>●全教科を通して、問われていることを正しく把握することに課題があることが分かった。また、低学年に大きな課題が見られるため、基礎基本の定着を確実にしていくことが必要だと考える。</p> <p>【全国学力・学習状況調査をうけて】</p> <p>●国語科・・・話すこと・聞くこと領域において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。(正答率40.0%)また、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題がある。(正答率60.0%)</p> <p>●算数科・・・二次元表から必要なデータを取り出して、分類整理することに課題がある。(Dデータの活用 正答率60.0%)また、示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に式し、基準値を超えているかどうかを判断することに課題がある。(A数と計算 Dデータと活用 正答率40.4%)</p>
--

### ②課題改善に向けた学校組織全体の重点取組等

重点取組(上記課題を踏まえたもの)	具体的方策(継続して取り組めるもの)	検証指標及び時期
<p>【学力向上について】</p> <p>・長文の読み取りと聞き取り方の習得</p> <p>・四則計算の確実な定着</p> <p>・グラフ、表、時刻と時間の理解</p> <p>・問いの正確な把握</p>	<p>①全学年全教科等でのR80の実施(必須)</p> <p>②下線等を効果的に活用し、問われていることを整理させることの徹底。及び長文の聞き取り読み取り方の指導の徹底。</p> <p>③教師用デジタル教科書や具体物を用いた指導の実施。</p> <p>④ドリルタイムでのアシストシート等を活用した類似問題の取組(週3回以上)また、2年生においてはドリルタイムでTTや習熟度別、少人数指導などの指導体制の充実</p>	<p>○単元末テストの平均正答率(低学年90点、中学年85点、高学年80点以上)(各学期末)</p> <p>○授業者のファシリテーター力の自己評価ならびに管理職による授業観察時の評価ポイントの平均70%以上を達成した教職員の割合80%以上(年間4回)</p>
<p>【学級・学習集団づくりについて】□</p> <p>・安心できる居場所づくり</p> <p>・支持的風土の醸成</p> <p>・児童生徒が主体の絆づくり</p>	<p>①学校経営会議及び全教職員で、全学級の实態と支援対象児童の把握をともに、改善計画を共有し、児童に肯定的な声かけを行うようにする。</p> <p>②全学級で、隔週金曜日の朝会時にソーシャルスキルトレーニングを実施する。</p> <p>③月の一回程度の児童会主催のレクリエーションの実施</p>	<p>○全学級が、Q-U2回目において、三次支援児童数0人、一次支援児童の割合数値を向上させる。</p> <p>○児童アンケート「学級の支持的風土に関する項目」肯定的評価80%以上(各学期末)</p>